

第6回カツオ資源調査・保全分科会議事録

日時：平成29年11月6日（月）12：00～14：00

場所：高知大学 地域連携推進センター 2F セミナー室

出席者：受田座長、山崎副座長、市川（事務局）外 資料：参加者リスト

（1）座長挨拶

分科会としての提言を可視化したい。提言に基づき、我々の行動計画や KPI についても可視化する。あわせて提言を幹事会に諮り、県民会議全体の提言の一部に盛り込むことを目指す。

前回の会議に基づき、資料2として提言案を作成した。資料2の各項目に○と●を付している。●は具体的な行動計画を意味する。本日は提言案の内容およびフォーマットについてご意見をいただきたい。

また、来年11月、全国豊かな海づくり大会が高知で開かれる。これを一つの区切りと捉え、これに向けた活動を各分科会でロードマップに描く。当分科会としての活動を明確化する意味も含めて、提言案の内容をご確認いただきたい。

（2）ディスカッション

- ・ 県民会議のお題目としてワンフレーズで判るようなものが必要ではないか。
- ・ WCPFC 参加にあたり登録団体名が必要であることから、次の案を出している。「Kochi Sustainable Skipjack Association」。高知カツオ県民会議に相当する言葉が Kochi と Association。WCPFC におけるカツオの公式ワードは Bonito でなく Skipjack。込められたワンワードが Sustainable。「取り戻す」が言葉として適切ではないかもしれないので、Sustainable に取り戻したいとの思いを込める。もしかしたら、もう少し能動的・積極的な言葉であってもいいかもしれない。
- ・ 副題として Save the skipjack forever のような形で気持ちを表してもいいのでは。
- ・ 初期には No Katsuo, No Life などの意見もあった。副題を入れるかどうかも含め、幹事会で諮りたい。
- ・ 高知県だけが吠えているように見られぬよう、カツオは日本の食文化であり、食文化の面も付与させた方がいい。
- ・ 1 ページで「我が国及び高知県のカツオに関する食文化を国際的に普及・啓発し、」として表現している。この部分に「和食」の言葉も強調して入れた方がいいかもしれない。
- ・ 3 ページの「資源調査の手法として、カツオのナブラが示す『白沸き』」について。特定企業に限らない捉え方で構わないか。こういった書き方で異論は無い。当社ではやる方向で考えているが、予算の面もある。
- ・ 水産庁の予算の脆弱性について、国民世論として訴える意味で記載。

- ・ 3 ページの衛星映像からの画像解析について、現時点で人工衛星からのモニタリングは難しいのではないかと。衛星画像から、カツオによる白沸きと識別できるかどうか。また、現在の人工衛星のほとんどは 10 時半の軌道で飛んでおり、10 時半にしか見れない。定常的に見ようと思えば多数衛星を飛ばす必要がある。今後検討する意味も込め、例えば、「その実施に向けた情報関連企業への働きかけを行う『と共に、モニタリング体制の確立を目指す』」としてはどうか。
- ・ 現在、白沸きの衛星からのモニターはされているのか。ファクトの確認が必要。
- ・ 3 ページのクラウドファンディングについて。資金調達に加え、アナウンス効果もある。当行からも協力できる部分はあるだろう。
- ・ クラウドファンディングの具体的な行動に向けたプランも考えていく必要がある。銀行にはこの部分のご支援もお願いしたい。
- ・ 長崎産養殖カツオが実際に高知県内のスーパーで販売されていた事実もある。
- ・ 初期資源量 60% の数値は時々刻々の資源評価のなかで今後変わる可能性がある。本提言を後々まで使うものとする具体的な数値を書かない考えもある。
- ・ 初期資源量 60% の数値は目標として必要。〇はすぐ実現は難しいものであるが、具体的な KPI はどこかに落とさなければならない。来年の 11 月までに 60% に向かって何らかのよい動きが生じれば、もう少し続けて頑張ろう、などの考えになるかもしれないが、もし無ければ県民会議の活動も見直すべきだろう。
- ・ 3 ページの「カツオ資源の安定的な確保を自力で進めていく考え方」について。自力とは県民会議としての自力の意味か？
- ・ 養殖を進める意味で自力と記載。どこが、という意味ではない。
- ・ カツオの行動や習性等は充分には解明されていないことから、3 ページ記載の調査事業は重要であろう。近年の先端技術を活用し、各種データ化と共に漁師とタグを組むことで漁業の近代化にも繋がる。
- ・ 現在、JAMSTEC アプリケーションラボでは海洋観測データに基づき海洋変動予測や季節予測をウェブページから発信している。船頭など、現場が有する各種情報はマクロ的に収集・共有できているのか？
- ・ どこで何が、などの漁獲情報は船間で暗号化した形でやり取りはされている。県では帳面のようなものを頂いて取り纏めに活用している。漁業者全員が見れる情報提供サービスはある。それをどう読み、どう動くかは各々企業秘密に類するであろう。
- ・ 水揚げを競う考え方ではなく、それぞれが保有する情報を共有するプラットフォームがあり、各種情報を上げるようになれば太平洋全体の資源量の分析が進む可能性もあるかもしれない。ただ、漁師は他所より釣って商売しなければならないことから情報を出すことに抵抗感もあろう。
- ・ ピンガーについて、黒潮牧場に受信機を設置することについては未記載としている。具体的な行動計画として●に位置づける考えもあるが、記載については確認が必要。

- ・書き方による伝わり方。水産庁は、目標設定そのものに問題があるというより、現状認識のズレのため合意できないことに問題があるとしている。厳しい現状が伝えられる文章が望ましいがボリューム的に難しい。養殖について。本質的には持続性のある一本釣りを文化的にも残していく必要があることを訴える提言であるが、養殖を明示することで一本釣りさえ放棄する伝わり方となってはいけない。
- ・本提言は県民会議としての提言でなく、分科会としての提言案。本来は県民会議としての提言があり、その下に分科会の提言が行動計画的にあるべき。まず行動することが大事であったため順序が後先になっているが、本案をたたき台として全体の提言も今後検討する。
- ・例えば英文で「人類は長い歴史の中で知性と節度を獲得したはずである」など、ドメスティックから離れた知性の高さを主張することも大事では。
- ・1～2ページのSDGsやIUU、世界的趨勢に関する記載がその意味であるが、この部分が冒頭にあってもいいかもしれない。カツオ資源調査・保全分科会の提言としては、調査・保全から入るべきかもしれないが、順序が後先になっている関係もあり、本案が県民会議全体の提言に敷衍する可能性もあることから、大きな話を冒頭に入れることも検討する。
- ・漁法の近代化など、カツオに限らず漁業全般の発展に繋がるものであり、そういった取組を続けることを通じてカツオがサステナブルになる。本分科会にも議員が名を連ねている。国の政策形成の中で、皆の議論や想いを政治家にも伝えていかなければならない。調査事業を進める上で、水産庁に厚みのある予算配分があるだけでもかなり状況は変わってくる。
- ・提言した内容が、その後どのようにになっているかはKPI含め、把握しレポートすべき。

(3) ディスカッションまとめ

序文として大きなスタンスの内容を記載する。それを実現するために初期資源量の例えば60%を早期に実現することを目指すため、WCPFCへの我が国の提案を支持していただける国際的な仲間づくりを含めて県民会議として主導していく、といった書き方の流れとする。自力の言葉は少し具体的にす。モニタリング体制の確立についての意見も反映を考える。養殖技術について、「研究を進めていく体制」は少し修正を入れるかもしれない。カツオ養殖の現状の情報を関係者からいただいたうえで表現を考える。

これらの修正を入れた上で、分科会の委員に修正版をメールで送る。それに対する答えをいただいたのち、幹事会に諮る。その後、当分科会の想いとして英訳版をホームページに掲載する。本提言をWCPFCに発信することについては幹事会等で確認する。

(4) 今後のスケジュール等について

- ・WCPFCから帰国後、第9回幹事会(12月25日)で報告したのち、年明けから分科会を再

始動させる。定例日の12月4日はWCPFC直前のためキャンセルするが、1月以降は当初通知されている日程の通り。ただしWCPFCにおける内容を踏まえ、分科会での検討内容は当初通知事項から変わり得る。

- ・第9回幹事会に分科会からも参加可能とするかどうか、事務局から幹事に諮る。
- ・次回は1月15日（月）12時30分開始。場所は高知大学地域連携推進センター。今後は昼食を済ませてからお集まりいただく。

（5）その他

- ・情報発信分科会から現状報告。カツオ県民会議パンフレットのラフ案ができたので、分科会座長にお返しして可及的速やかに完成させたい。今回のWCPFCについて、共同通信社が扱うことで他社も扱えるようにする。県民会議のホームページのアップデート内容として、「県民会議、私はこう考える」のインタビュー企画を進めている。
- ・連携中枢都市圏構想に関して、高知市、中土佐町、黒潮町が連携するテーマとしてカツオがあることを個人的にパブコメした。